

12・16 武田対話集会に向け

事前に関示を要請した質問と武田の回答

武田問題対策連絡会

< 開示項目と武田の回答 >

、 水の収支バランスシートに数値をいれてもらう

空調排水 3,300 m³ の放水の内訳

冷却塔用水の総量、外気への散水量、公共下水道への放流量

、ボイラ補給水 " "

、スクラバー補給水 " "

実験室系用水 1,100 m³ の内訳

一般動物排水の放流量

一般実験排水の放流量

P3 排水の "

RI 排水の "

実験室系排水のモニタリング項目

< 武田の回答 >

「空調設備 3,300m³ の内訳」

- ・ボイラー補給水 :150m³ 放流:150m³
- ・スクラバー補給水:900m³ 放流:530m³
蒸発飛散:370m³
- ・冷却塔用水 :2,250m³ 放流:600m³
蒸発飛散:1,650m³

「実験室系 1,000m³ の内訳」

- ・一般実験、p3 排水 350m³
- ・RI 排水(糞 aiW む):150m³
- ・一般動物排水 :500m³
(このうち、動物飲料及び回収で排水に行かないものが 220m³)

「生活用水 200m³」のうち、60m³ が飲料等で消失

「連続モニタリング項目」

- ・pH
- ・TOC (全有機炭素)
- ・温度

下記 の水質管理モニタリング項目も同様です。

**、給排水配管設計図、排水貯留槽以降の水質管理内容 モニタリング項目
(水質管理は滅菌処理設備を含むのか)**

< 武田の回答 >

設計図は開示いたしません。現有施設での水質管理の内容とモニタリング項目は以下の通りです。

大阪地区：生活環境項目（14 項目） 健康項目（20 項目）
週 1 回測定。月 1 回大阪市に報告
温度・pH は常時測定
筑波地区：生活環境項目（11 項目） 健康項目（15 項目）
月 1 回測定。茨城県、つくば市に報告
温度・pH は常時測定

屋上排気塔の排気図に各棟からの排気量の数値の記入
薬効、薬理実験施設排出口 4 5 基からの排出量
生化学実験施設排出口 6 0 基からの排出量
創薬化学実験施設排出口 8 0 基からの排出量
個液分離槽排出口 5 基からの排出量
動物死体焼却炉からの排出量
ボイラーからの排出量

< 武田の回答 >

計算書計画した設備の諸元等は予測評価書 p.337 に記載しております。

空調設備のフローシート、空調設計図

吸気から排気まで各槽、各実験室の空調フロー
フィルターの設置場所、種類
加湿フロー含む
送風機、排風機の仕様 空調発生源の冷凍機・加湿器の仕様

< 武田の回答 >

計画図を不特定多数の型に公開することはセキュリティ上問題がありますので開示致しません

研究所建物の各階の上層の仕様も含めた建築設計図（容積率のわかるもの）

< 武田の回答 >

設計図は開示いたしません。容積率は約 120%です

各実験棟の実験室の数～動物実験室数 一般実験室数 P3・RI 実験室数、安全キャビネット数

< 武田の回答 >

実験室の数は、開示しません

**動物実験室の空調・加湿システム、給餌・給水・洗浄・汚物の排出のやり方
動物実験施設の能力～マウス、ラット換算で何匹くらい飼育出来る施設なのか**

< 武田の回答 >

実験動物施設設計にあたっては、以下の図書等を参照しています。

- ・日本建築学会編「実験動物施設の設計」(彰国社):1989年の最新の基準
- ・日本建築学会編「平成8年度ガイドライン実験動物施設の建築および設備」(アドブリー):2007年度の最新版

実験動物を生命あるものとして尊重し、適切な飼育管理を行います。弊社はアメリカの *deforthecareanduseof laboratory animals* (通称 ILARGuide) に示された各種動物に必要な飼育面積を確保できるケージで動物を飼育し、また、日本学術会議が定めた「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」に準拠して飼育施設を運用しています。新研究所の動物実験施設は、これらに対応できる能力ということになります。

実験動物の飼育数等の情報は、研究戦略に関わることであり、公表しておりません。

大阪十三の実験施設と新研究所の能力比較表

筑波研究所 //

比較項目～建物大きさ、排水・排気量 動物実験施設の能力、焼却炉の能力 p3施設はあるか 研究施設に係わる人員等々

< 武田の回答 >

新研究所は、現有大阪市とつくば市にある研究施設の統合による研究効率化が主な目的です。研究人員については、統合前後でほとんど増加のない1200名程度を予定しておりますので、研究能力という観点からは、ほぼ同等と考えます。ただ、大阪ではこの数年の研究人員増加により、研究スペースが狭隘化しており、その解消も研究効率化の手段としているため、研究スペースについては、現状の研究所合計より新研究所では大きくなっております。研究スペースの詳細情報および実験動物の数などに関しては、研究戦略に関わることであり、公表しておりません。

、焼却の燃焼効率、臭気対策、集塵装置はどうなっているか

< 武田の回答 >

予測評価書 p.127 に記載しております。